

新青丸研究航海報告

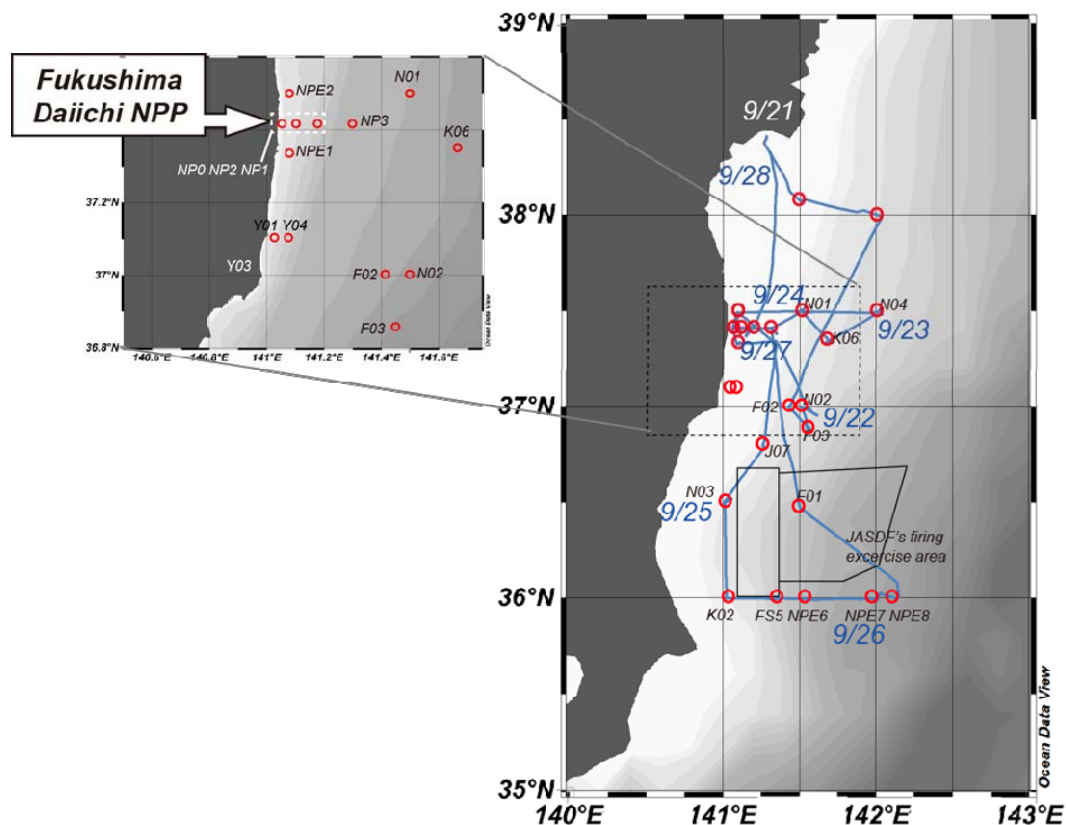
東京大学大気海洋研究所

- * 航海番号 新青丸 KS-17-11 次研究航海
- * 観測海域 常磐沖
- * 航海期間 平成29年9月21日（木）～平成29年9月29日（金）
- * 出港日時・場所 9月 21日 14時 石巻港
- * 入港日時・場所 9月29日 10時 石巻港
- * 寄港期間・場所 なし
- * 航海の研究題目
（和文）福島周辺海域における放射性核種の再分布動態（震災対応）
（英文）Secondary transport of anthropogenic radionuclides in the region around Fukushima
- * 主席研究員（氏名・所属・職名・e-mail アドレス◎は@）
乙坂 重嘉・日本原子力研究開発機構・研究主幹・otosaka.shigeyoshi@jaea.go.jp
- * 研究内容, 主調査者（e-mail アドレス）, 観測項目
 1. 人工放射性核種の生物濃縮機構の包括的な把握
西川 淳 (jun_nishikawa@tokai-u.jp) : プラクトン、ベントス、マイクロネクトン、
及び魚類等ネクトン中の放射性核種濃度分布
乙坂 重嘉 (otosaka.shigeyoshi@jaea.go.jp) : 海底堆積物中の放射性核種分布
 2. 福島沿岸から沖合への数年から十年規模での放射性核種の輸送機構の解明
三野 義尚 (kuro@hyarc.nagoya-u.ac.jp) : 沈降粒子束及び沈降粒子特性
帰山 秀樹 (kaeriyama@affrc.go.jp) : 沈降粒子による放射性核種の輸送量
鶴田 忠彦 (tsuruta.tadahiko@jaea.go.jp) : 海底堆積物特性
古市 尚基 (furu1naoki@affrc.go.jp) : 海底表面付近における懸濁物量と移動特性
 3. 事故由来放射性核種の継続的な海洋への放出状況の検出と放出源の推定
青野 辰雄 (aono.tatsuo@qst.go.jp) : 海水中の溶存放射性セシウム分布
鈴木 崇史 (suzuki.takashi58@jaea.go.jp) : 海水中の溶存放射性ヨウ素分布

* 乗船研究者氏名・所属・職名

乙坂 重嘉・日本原子力研究開発機構 原子力基礎工学研究センター・研究主幹
 鈴木 崇史・日本原子力研究開発機構 原子力基礎工学研究センター・研究副主幹
 鶴田 忠彦・日本原子力研究開発機構 福島環境安全センター・研究副主幹
 御園生 敏治・日本原子力研究開発機構 福島環境安全センター・研究員
 西川 淳・東海大学海洋学部・教授
 佐藤 陽香・東海大学大学院海洋学研究科・大学院生
 中村 七海・東海大学海洋学部・学部生
 見崎 日向子・東海大学海洋学部・学部生
 宮腰 恭平・東海大学海洋学部・学部生
 青野 辰雄・量子科学技術研究開発機構・チームリーダー
 嶋山 秀樹・水産研究・教育機構 中央水産研究所・主任研究員
 古市 尚基・水産研究・教育機構 水産工学研究所・研究員
 三野 義尚・名古屋大学宇宙地球環境研究所・助教
 戸田 亮二・東京大学大気海洋研究所・技術職員
 片山 健一・マリンワークジャパン・統括主任

* 航跡・測点図



図中の日付は正午（JST）における本船位置を示す。